

14時30分解禁

平成29年10月 全国百貨店売上高概況

平成29年11月21日

I. 概 況

1. 売上高総額	4,693億円余
2. 前年同月比	-1.8%(店舗数調整後/3か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	80社 226店 (平成29年9月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,687,655㎡ (前年同月比:-3.1%)
5. 総従業員数	71,273人 (前年同月比:-4.3%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	3-5月 -0.1%、4-6月 0.7%、5-7月 -0.1%、 6-8月 0.5%、7-9月 1.2%、8-10月 1.2%

[参考] 平成28年10月の売上高増減率は-3.9%(店舗数調整後)

【特 徴】

10月の売上高は、1.8%減と3か月ぶりにマイナスとなった。富裕層消費やインバウンドの活況から、依然、大都市中心に需要の底堅さは見られるものの、2週連続の台風直撃や土曜日が1日少なかったこと等から入店客数に影響を受け、前年実績には届かなかった。

顧客別では、前年9月にあった祝日が今年は10月にずれ、国慶節休暇と重なって連休が増えたこともあり、外国人売上高が280億円余(シェア6.0%/87.3%増)と過去最高を大きく更新した半面、国内顧客(シェア94.0%/4.7%減)は天候や暦など外部与件の影響を受けて振るわなかった。

地区別では、大都市が、10か月連続増と好調な大阪(9.5%増)と札幌(2.7%増)をはじめ、福岡(3.0%増)、京都(0.4%増)、横浜(0.1%増)の5都市で前年実績を上回り、合計0.4%増と3か月連続でプラスした。一方、前月まで回復傾向にあった地方は、商況を牽引している高額消費の割合が小さいこともあり、マイナス6.4%と減少幅を広げる結果となった。

商品別では、増勢が続く化粧品(20.1%増)と高額商材(美術・宝飾・貴金属:5.8%増)を中心に、雑貨が11か月連続の9.0%増であった。前月プラス転換した衣料品(4.3%減)は、気温低下でコートやセーターなどが好調だったものの前年には届かず、その他主要3品目についてもマイナスとなった。特に、デイリー商材の食料品(3.9%減)は、不漁不作による生鮮食品(5.6%減)の不振に加え、客数減の影響が反映して5か月連続のマイナスとなった。

【要 因】

(1) 天 候 : 気象庁発表「10月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇台風21、22号や秋雨前線、低気圧の影響で、北日本太平洋側と東・西日本では降水量がかなり多かった。特に西日本では、太平洋側・日本海側ともに1946年の統計開始以来最も降水量が多かった。また、北・東・西日本では日照時間がかなり少なかった。

(2) 営業日数増減 30.9日(前年同月比 ±0日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日(〃 -1日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数131店舗)

①増加した:26店、②変化なし:33店、③減少した:72店

(5) 10月歳時記(秋物商戦、秋の行楽)の売上(同上/有効回答数92店舗)

①増加した:14店、②変化なし:51店、③減少した:27店

全国百貨店 売上高速報 2017年10月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	469,372,762	100.0	-1.8 (-1.3)
10都市	326,479,127	69.6	0.4 (1.2)
札幌	13,057,064	2.8	2.7
仙台	6,343,151	1.4	-0.2 (-7.1)
東京	126,152,849	26.9	-0.3
横浜	28,138,592	6.0	0.1
名古屋	29,529,478	6.3	-3.1
京都	19,443,985	4.1	0.4
大阪	65,985,758	14.1	9.5
神戸	11,642,534	2.5	-30.9 (-5.1)
広島	9,660,913	2.1	-3.6
福岡	16,524,803	3.5	3.0
10都市以外の地区	142,893,635	30.4	-6.4 (-6.5)
北海道	1,417,768	0.3	-8.6
東北	7,694,056	1.6	-6.1
関東	63,798,425	13.6	-4.1 (-6.9)
中部	11,229,210	2.4	-4.7
近畿	18,250,841	3.9	-19.3 (-11.6)
中国	10,641,221	2.3	-3.5
四国	7,704,550	1.6	-5.3
九州	22,157,564	4.7	-3.8

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	469,372,762	100.0	-1.8 (-1.3)
紳士服・洋品	36,667,175	7.8	-0.4 (-0.4)
婦人服・洋品	101,773,994	21.7	-5.3 (-5.2)
子供服・洋品	10,639,616	2.3	-4.2 (-3.3)
その他衣料品	10,776,930	2.3	-7.0 (-7.0)
衣 料 品	159,857,715	34.1	-4.3 (-4.1)
身のまわり品	60,603,247	12.9	-1.7 (-1.4)
化粧品	43,599,695	9.3	20.1 (20.6)
美術・宝飾・貴金属	28,702,865	6.1	5.8 (6.0)
その他雑貨	16,824,541	3.6	-8.7 (-5.8)
雑 貨	89,127,101	19.0	9.0 (9.9)
家 具	4,815,951	1.0	-11.2 (-11.2)
家 電	910,537	0.2	-14.8 (-14.7)
その他家庭用品	13,248,774	2.8	-9.8 (-9.9)
家 庭 用 品	18,975,262	4.0	-10.4 (-10.5)
生 鮮 食 品	22,831,480	4.9	-5.6 (-5.0)
菓 子	27,873,182	5.9	-3.4 (-3.1)
惣 菜	28,717,233	6.1	-3.6 (-3.3)
その他食料品	35,223,107	7.5	-3.3 (-1.0)
食 料 品	114,645,002	24.4	-3.9 (-2.9)
食 堂 喫 茶	12,104,366	2.6	-5.1 (-4.4)
サ ー ビ ス	5,041,238	1.1	-8.1 (-8.0)
そ の 他	9,018,831	1.9	2.1 (1.9)
商 品 券	8,828,055	1.9	-3.6 (-3.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 0.4% (店舗数調整後／3か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -6.4% (店舗数調整後／6か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	0.4	0.2	3か月連続プラス
札幌	2.7	0.1	10か月連続プラス
仙台	-0.2	0.0	5か月ぶりマイナス
東京	-0.3	-0.1	3か月ぶりマイナス
横浜	0.1	0.0	3か月連続プラス
名古屋	-3.1	-0.2	2か月ぶりマイナス
京都	0.4	0.0	2か月連続プラス
大阪	9.5	1.2	10か月連続プラス
神戸	-30.9	-0.8	2か月連続マイナス
広島	-3.6	-0.1	13か月連続マイナス
福岡	3.0	0.1	3か月連続プラス
10都市以外の地区	-6.4	-2.0	6か月連続マイナス
北海道	-8.6	0.0	13か月連続マイナス*
東北	-6.1	-0.1	2か月連続マイナス*
関東	-4.1	-0.6	3か月ぶりマイナス
中部	-4.7	-0.1	5か月連続マイナス
近畿	-19.3	-0.8	8か月連続マイナス
中国	-3.5	-0.1	2か月ぶりマイナス*
四国	-5.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
九州	-3.8	-0.2	5か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が11か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が22か月連続、食料品が5か月連続、衣料品が2か月ぶり、身のまわり品が3か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が31か月連続、美術・宝飾・貴金属が7か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.8	—	3か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-0.4	0.0	3か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-5.3	-1.2	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-4.2	-0.1	3か月ぶりマイナス
その他衣料品	-7.0	-0.2	24か月連続マイナス
衣料品	-4.3	-1.5	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-1.7	-0.2	3か月ぶりマイナス
化粧品	20.1	1.5	31か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	5.8	0.3	7か月連続プラス*
その他雑貨	-8.7	-0.3	6か月連続マイナス*
雑貨	9.0	1.5	11か月連続プラス
家具	-11.2	-0.1	2か月ぶりマイナス
家電	-14.8	0.0	4か月連続マイナス
その他家庭用品	-9.8	-0.3	19か月連続マイナス
家庭用品	-10.4	-0.5	22か月連続マイナス
生鮮食品	-5.6	-0.3	43か月連続マイナス*
菓子	-3.4	-0.2	2か月連続マイナス*
惣菜	-3.6	-0.2	3か月ぶりマイナス*
その他食料品	-3.3	-0.2	2か月連続マイナス*
食料品	-3.9	-1.0	5か月連続マイナス
食堂喫茶	-5.1	-0.1	6か月連続マイナス
サービス	-8.1	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他	2.1	0.0	6か月連続プラス
商品券	-3.6	-0.1	80か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成29年10月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年11月21日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 261億円余
2. 前年同月比	-0.3% (3か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.2% (91.8%) : 非店頭-6.2% (8.2%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年9月対比±0店)
5. 総店舗面積	843,650㎡ (前年同月比:-4.4%)
6. 総従業員数	18,155人 (前年同月比:-3.4%)
7. 3か月移動平均値	3-5月 -0.7%、4-6月 -0.2%、5-7月 -0.3%、 6-8月 1.0%、7-9月 2.1%、8-10月 2.5%

[参考] 平成28年10月の売上高増減率は-4.4%

【特徴】

- (1) 東京地区の入店客数は2週連続週末に上陸した台風や土曜1日減の影響を受け、半数の店が前年実績を下回ったものの、合計値では各店が販促策等を積極展開した結果、その減少幅は0.5%減と、売上高(0.3%減)同様にほぼ前年並みの水準にとどめた。
- (2) 衣料品は4.3%減と3か月ぶりにマイナスとなった。細分類では、気温低下でブルゾンやコートなどの重衣料や冬用肌着が好調だった紳士服(0.7%増)、ベビー・マタニティの動きがよかった子供服・洋品(0.3%増)は健闘したものの、主力の婦人服・洋品(7.1%減)をカバーするまでには至らなかった。
- (3) インバウンドだけでなく国内需要も拡大している化粧品は、しわ改善などエイジングケア化粧品の人気が高く、26.2%増と31か月連続プラス。高額商材(美術・宝飾・貴金属)では、特に高級腕時計が押上げる形で高伸び6.5%増と6か月連続プラス、この結果、雑貨トータルでも二桁増のプラス13.1%と、11か月連続で増勢を維持している。
- (4) 一方、家庭用品(13.6%減)は前年の大口受注の反動や売場のリース転換によりマイナス。食料品(3.0%減)も、依然、鮮魚不漁や季節野菜の不作等による価格高騰が続いており、前年をクリアできなかった。
- (5) 年々盛り上がりを見せるハロウィン商戦は、食品売場を中心にメーカーと連携したキャンペーンやイベントが好評を博し、集客・売上に貢献するとともに、百貨店ならではの楽しさを創出している。
- (6) 11月中間段階の商況は、6.3%増(11/16)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.9日(前年同月比 -0.1日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
 - ①増加した: 4店、②変化なし: 6店、③減少した: 9店
- (3) 10月歳時記(秋物商戦、秋の行楽)の売上(同上/有効回答数12店舗)
 - ①増加した: 3店、②変化なし: 6店、③減少した: 3店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年10月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	126,152,849	100.0	-0.3
紳士服・洋品	13,067,259	10.4	0.7
婦人服・洋品	24,150,989	19.1	-7.1
子供服・洋品	2,518,432	2.0	0.3
その他衣料品	2,382,959	1.9	-5.2
衣 料 品	42,119,639	33.4	-4.3
身のまわり品	17,909,079	14.2	-1.4
化粧品	13,455,655	10.7	26.2
美術・宝飾・貴金属	8,734,232	6.9	6.5
その他雑貨	5,052,767	4.0	-3.4
雑 貨	27,242,654	21.6	13.1
家 具	1,383,968	1.1	-11.7
家 電	608,713	0.5	16.1
その他家庭用品	3,314,885	2.6	-18.1
家 庭 用 品	5,307,566	4.2	-13.6
生 鮮 食 品	4,145,724	3.3	-8.0
菓 子	6,818,412	5.4	-3.3
惣 菜	6,676,856	5.3	-3.5
その他食料品	7,884,217	6.2	0.5
食 料 品	25,525,209	20.2	-3.0
食 堂 喫 茶	2,893,380	2.3	-4.1
サ ー ビ ス	2,001,391	1.6	-7.8
そ の 他	3,153,931	2.5	18.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	2,242,950 千円	11.1
従 業 員 数	18,155 人	-3.4
店 舗 面 積	843,650 m ²	-4.4

営 業 日 数	30.9 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が11か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が14か月連続、食料品が4か月連続、衣料品と身のまわり品が3か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が31か月連続、美術・宝飾・貴金属が6か月連続、紳士服・洋品、子供服・洋品、その他食料品が3か月連続、家電が2か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.3	—	3か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	0.7	0.1	3か月連続プラス
婦人服・洋品	-7.1	-1.5	2か月連続マイナス
子供服・洋品	0.3	0.0	3か月連続プラス
その他衣料品	-5.2	-0.1	2か月ぶりマイナス
衣料品	-4.3	-1.5	3か月ぶりマイナス
身のまわり品	-1.4	-0.2	3か月ぶりマイナス
化粧品	26.2	2.2	31か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.5	0.4	6か月連続プラス*
その他雑貨	-3.4	-0.1	2か月ぶりマイナス*
雑貨	13.1	2.5	11か月連続プラス
家具	-11.7	-0.1	2か月ぶりマイナス
家電	16.1	0.1	2か月連続プラス
その他家庭用品	-18.1	-0.6	7か月連続マイナス
家庭用品	-13.6	-0.7	14か月連続マイナス
生鮮食品	-8.0	-0.3	20か月連続マイナス*
菓子	-3.3	-0.2	4か月連続マイナス*
惣菜	-3.5	-0.2	2か月連続マイナス*
その他食料品	0.5	0.0	3か月連続プラス*
食料品	-3.0	-0.6	4か月連続マイナス
食堂喫茶	-4.1	-0.1	2か月連続マイナス
サービス	-7.8	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他	18.8	0.4	3か月連続プラス
商品券	11.1	0.2	2か月ぶりプラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>